

## 神学校献金の取り組み

### 大井バプテスト教会の場合

私たちの教会では「神学校献金」というと西南学院大学の神学生や、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校で牧師・主事を目指している学生の奨学金のための献金となります。これは壮年会のリードで年2回の取り組みをしています。6月末の神学校週間の時と2月に行っています。ところが突然降りかかってきた新型コロナ禍により全てが閉ざされてしまいました。なんとか神学校週間の献金に取り組めたことは幸いでした。

さて、東京・神奈川・北関東の三連合で支えている東京バプテスト神学校のことですが、この働きを大井教会は重

要だと評価しています。特に、以前は大井教会で音楽科が行われていましたし、現在も講師として菊地先生が担っておられます。また、加藤先生も講師として出向かれておられます。現在は2人の大井教会信徒が専攻科で学んでおります。東京バプテスト神学校をどう支えていくかは「伝道者養成」という視点からも大変重要です。私たちの教会は数年前から、東京バプテスト神学校支援を教会レベルで考えることとして定期総会でその献金額を決めています。今年はコロナ禍により定期総会が7月に延期となりましたが、この厳しい財政状況の中にあっても東京バプテスト神学校を支える

大井バプテスト教会員 山田 誠一

献金は現状維持となりました。まだまだ厳しい状況は続くと思いますが、伝道者を養成する神学校をなんとか支えていきたいと願って祈りを合わせます。



定期総会の様子

## 神学校献金・後援会献金（2020年度前期）

2020年度東京バプテスト神学校への献金は、後援会献金 567,500円（前年度 620,500円）、教会・集会献金 896,662円（前年度 1,468,333円）でした。皆様の尊い献金に感謝します。

### 2020年度前期 後援会献金（個人） 91名・95件 合計567,500円

芦沼光雄、井上昭子、井本義孝、吉岐基子、永海一秀、越智満、猿渡葉子、奥谷恭子、奥田悟、奥田厚子、奥田稔、岡田成實、加山礼子、梶原純一、関根孝枝、菊地正弘、吉村知子、金元たづ子、金香泰誠、栗山真一、桑原千代子、古家良子、古川博子、後藤ますみ、向井浩子、高橋陽子、高橋良子、高島泰英、高柳美枝子、鴻野清美、佐川富美子、斎藤美津栄（2）、坂元幸子、三木睦美、山口佳子、山崎清美、山本弘夫、四津明美、秋山純子、秋山信夫、十時節子、小松澤一枝、小川さつき、小平公憲、小柳隆司、松村栄子、松田俊介、松田朝子、上原克也、常廣澄子、森山ひろみ、神山武、菅野智子、星田恒、西方泉、青木節子、石井鉄也、石井由美、石垣茂夫、石水美佐子、川勝高宏、川平朝清、浅野邦夫（2）、染森哲朗、村上真由美、竹内正幸、長田道夫、鳥飼好男、辻真理子、鶴野博子、田村俊彦、田代ゆか、渡部富夫、都丸利子、土屋小夜子、東方敬信、藤井恭子、藤原俊子、柏いずみ、飯野實、氷川英俊、富田信恵（2）、文廷翼、豊永義典、木元和子（2）、木原道雄、木村一充・まどか、木村晋治、鈴木宗一・幸子、鈴木明子、蓮香隆夫

西川口キリスト教会、日立バプテスト教会

【神奈川地方連合】7教会・伝道所  
相模中央キリスト教会、横浜JOYバプテスト教会、逗子第一バプテスト教会、青葉キリスト教会、横浜ニューライフバプテスト教会、港南めぐみキリスト教会、湘南台バプテスト教会

【その他】3教会・伝道所  
大和愛宣教伝道所、小倉キリスト教会、平岡ジョイフルチャペル

#### \*連合別内訳\*

東京241,250円、北関東239,412円、神奈川361,500円、その他39,800円

### 2020年度前期 集会献金 2件 合計 59,700円

夏期講座開会礼拝・閉会礼拝席上献金

#### \*連合別内訳\*

東京0円、北関東0円、神奈川0円、その他59,700円

東京バプテスト神学校の働きを支援するために  
あなたも「後援会」にご入会ください

1. 定期支援  
個人会員  
年額1口 ¥5,000  
何口でも歓迎いたします
2. 自由献金支援  
支援額も、支援回数も  
ご自由にお決めください。

#### 郵便振替口座

00210-8-75658

東京バプテスト神学校後援会

\*専用払込票をご希望の方は、メールにてお申込下さい。



# 東京バプテスト神学校 後援会 NEWS

No.29

Homepage ▶ <http://tbts.jp> Mail ▶ [seminary@tbts.jp](mailto:seminary@tbts.jp)

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内 03-3947-5141  
発行日：2020年10月29日 発行者：東京バプテスト神学校後援会 秋山 信夫

## 巻頭言

### 神学校とコロナウィルス

東京バプテスト神学校 事務長 川口 通治（篠崎キリスト教会牧師）

2020年度は東京バプテスト神学校のカリキュラムがコロナウィルスの感染蔓延により、大きく動かされた年でした。4月3日に予定されていた入学式は中止となり、授業開始日も4月6日から13日に延期となりました。また従来の主力であった教室での受講が難しくなり、授業はすべてオンライン（通信アプリ zoom の使用）で行い、教師も学生も在宅での授業となりました。そのために必要な通信テスト（ネット環境の整備、パソコンチェック）を延べ30名以上に行う作業も必要になりました。

当初は受講形態変更に伴い、受講生の減少が懸念されていましたが、減少はなく、4月以降順調に授業を行うことが出来ました。特に神学特講「新約釈義～ヨハネ福音書を読む」は32名の方が受講され、連続公開講座「信徒のための説教」は26名の方の受講で、特段のトラブルもなく、授業を進めることが出来ました。

問題になったのは8月に予定されていた夏期講座で、通常は茗荷谷教会礼拝堂での通学参加者主体（通学80名、通信20、併せて100名参加）でしたが、感染防止のために会堂受講を40名に制限し、通信主体の講座（教会共同受講やライブ配信、ビデオ受講）に切り替え、結果的には110名の方の参加を得て、旧約学の月本昭男先生から「創世記を読む」の講義をいただきました。

後期授業は10月5日から始まりですが、コロナウィルスの感染懸念は依然残り、受講者の通学リスク・教室リスクを減らすことが求められ、後期も教室受講を一部制限し、通信受講（ライブ通信、ビデオ通信）を併用する形となりました。後期入学希望者の面接は予定通り行われ（2名入学）、入学礼拝式は10月2日に参加者を制限して行う予定です。

後期の特色は公開講座を4科目に増やし、一部科目については教室受講と通信受講（ライブ通信、またはビデオ通信）を併用する形にしたことです。ただ驚いたことは、教室受講が可能な課目でも、大半の方はオンライン授業またはビデオ受講を希望され、教室受講者はゼロか、1～2名であったことです。今だに、ウィルス感染に対する警戒感が強いことと、通学不要なオンライン受講の利便さが認識されたためと思われる。もしコロナ禍が収まってこの傾向が続くようであれば、神学校のこれまでの在り方（仕事が終わった後の夜間に開講する、通学が便利ように都心に教室を確保する等）が、変更を迫られるかもしれません。また、従来、当神学校の受講者は設立母体の東京・神奈川・北関東連合の諸教会教会員が主体でしたが、オンライン授業の普及と共に、三連合の枠を超えた諸教会の受講者の方が少しずつ増えてきました。

コロナ後の世界がどのようなになるの



か、予測はできませんが、どのようになるうとも、対応できる柔軟性が求められている気がします。最後にラインホルド・ニーバーの「平静を求める祈り」の全文をお贈りしたいと思います「神よ、変えることのできないものを静穏に受け入れる力を与えてください。変えるべきものを変える勇気を、そして、変えられないものと変えるべきものを区別する賢さを与えて下さい。一日一日を生き、この時をつねに喜びをもって受け入れ、困難は平穩への道として受け入れさせてください。これまでの私の考え方を捨て、イエス・キリストがされたように、この罪深い世界をそのままに受け入れさせてください。あなたのご計画にこの身を委ねれば、あなたが全てを正しくされることを信じています。そして、この人生が小さくとも幸福なものとなり、天国のあなたのもとで永遠の幸福を得ると知っています。アーメン」。



## 卒業生の証

# すべてのことに時がある

### 常廣 澄子 (志村バプテスト教会牧師)



志村バプテスト教会からの招聘をお受けし、2015年に赴任してから5年が過ぎました。着任した当時は岡村正二先生がご健在でしたので、慣れない私をいろいろな点でお導きくださり、その大きな助けを心から感謝しています。教会員の皆さんも新米牧師をあたたく受け入れてくださいましたので、ただただ感謝して一日一日を過ごし、今日に至るまで守られています。今は、協力牧師の永田邦夫先生と二人で感謝して伝道牧会にあたっています。

私が神学校で学び始めたのは、ある時、ギリシア語で聖書が読めたらどんなに良いだろうと思ったことがきっかけでした。しかし、それまでの長い間、教会の二階で神学校の授業が行われていることを知ってはいても、自分がそこで学ぼうなどということは何も考えたことがありませんでした。ところが、一歩神学校での学びに足を踏み入れてみると、何か新しく目が開かれたようでした。少しずつ、キリスト教の歴史や神学、聖書学に興味を覚えて聴講するようになり、とうとう本科を経て専攻科を卒業するまで、主はしっかり私と私の家族を助けて守り導いてくださったのです。何と不思議なことでしょうか。

今、主の日の礼拝で講壇に立ち、御言葉の宣教という御奉仕をさせていただく時、私の心はいつもこの尊い御奉仕を私のようなものが担わせていただいていることに畏れを覚え

るとともに、その恵みの大きさと導きの不思議さに感動します。思い返せば、小学生の時に主の福音に接してから今日に至るまで、私の人生は主なる神によって導かれて来ました。高校生の時にバプテストを受け、以来半世紀以上の教会生活を通して多くのことを教えられ、一人の人間として育てていただきました。それは信徒としての体験でしたが、今、教会に仕える立場になってみると、主にあっては一つ無駄なことはないのだと思っています。

私の記憶に刻み付けられているのはもう60年も前のこと、子どもの私たちに対し、涙ながらに十字架の愛を語ってくださった若い伝道師の姿です。もしあの時の集会に来ていた女の子が牧師になって教会で働いていることを知ったらどんなに驚かれるでしょうか。「お団子が安いと覚えてね」とご自分の名前を紹介された丹後安子先生です。私は安子先生といつの日か神の国でお会いする日を楽しみにしています。



常廣澄子牧師 就任・按手礼式記念 (2015年10月18日)

牧師としての大事な仕事は、教会員一人ひとりのために祈ることと、説教という御言葉の奉仕だと思いますが、説教の準備という苦しく大変な作業の中で、自分は何と感謝な存在だろうかと思うことがあります。それは今まで何度となく読んでいた箇所が、新しい光を放って迫ってくる時があるからです。御言葉の恵みは日ごとに新しいことを実感しています。

ところで、他の多くの教会と同じように、志村バプテスト教会も高齢化しています。しかし主にある皆さんはいつも若々しく優しくてあたたかです。そんな教会の礼拝に、長い間来ておられなかった方が、一人、二人とおいでくださるようになるのを見る時、主はずっとそれらの方々に寄り添っておられたことを知らされ、今が主の時なのだ心から感謝いたします。新型コロナウイルス感染防止対策で教会や礼拝の形が変わりつつある中、「すべてのことに時がある」という御言葉をかみしめています。

## 新任教役者の証

### 吉村 知子 (愛知新生キリスト教会 牧師)

私は今年の3月に東京バプテスト神学校神学専攻科を卒業し、神様の不思議な導きにより、7月から愛知新生キリスト教会の牧師として働いています。新しい土地、新しい人々、



新しい務めで、新しいことづくめですが、神様が先立って道を開いてくださることを信じて、毎日歩んでいます。私の一日は、愛知新生キリスト教会のある豊山町を自転車で「探索」することから始まります。小学生たちが近くの学校に集団登校する姿、中高生が自転車で登校する姿、そして朝7時には、近くの工場へ出勤する人々が道路が渋滞することも知りました。人口1万人の豊山町にはその他多くの人々が毎日必死で働いている姿を垣間見ることができます。夏の間、朝は蝉の声で目覚め、近くの田んぼにはシオカラトンボが飛んでいました。豊かな自然と商業地域が共存している町です。

今年で宣教開始41年を迎える愛知新生キリスト教会は、現在の会堂に移転して18年、礼拝堂は2階にあるためエレベーターも設置され、バリアフリーになっています。現在は、ホームページ開設など、主からビジョンを頂いています。献身的な兄弟姉妹に支えられながら、共に祈り、共に喜びながら、主を讃える群れでありたいと思います。

### 藤原 靖彦 (経堂バプテスト教会 牧師)

神学校・神学生への、お祈りと具体的なお支えに感謝いたします。私は、今年東京バプテスト神学校の専攻科を卒業して、牧師として働いています。コロナ自粛が決まった後に着任したので、5月末までの主日は、妻と二人で礼拝を守りました。ですから、私の最初の仕事は、自粛していた礼拝を元に戻すことでした。まだ、主の晩餐など完全に元に戻っているわけではありませんが、日常を取り戻せたことに感謝しています。



私は、学生時代に東京で、信仰を頂きました。献身の思いはこのころからですが、機械の設計技師として長崎

の工場に就職し、今年3月に60歳で定年退職しました。転機だったのは、9年前に首都圏に単身赴任をしたことです。このとき、献身の決意を実行に移すときが来ました。私が本社の管理部門に異動したので、神学校で学ぶ時間がとれるようになったのです。献身のためには、他にも両親のこと、二人の娘のことなど課題があったのですが、一つ一つの道を神様が時間をかけて備えてくださいました。そして、献身のための最後の課題は、招聘でした。私は会社に雇用延長を断ったので、招聘がなければ4月から無職の浪人です。幸いなことに、このときも神様が道を備えてくださいました。

これからの課題「牧師としての働き」のために、お祈りいただけると幸いです。

## 学びつつ、伝え、分かち合う

### 中根 浄 (花小金井キリスト教会 牧会スタッフ)

私は1944年生まれ、現在76才です。1962年、18才の時バプテストを受けて以来、今まで主に豊かに導かれてきました。



サラリーマン生活を終えて、4人の子どもの教育もひと段落した時、妻の病と死に遭遇しました。自分の信仰がガタガタと揺さぶられて、神学を学びきっかけとなり、始めは東京バプテスト神学校の「信徒リーダーコース」に入りました。もう少し学びを続けたいとの思いで「神学本科」に、さらにもっと深めたいとの思いで「神学専攻科」に進みました。

そして、2019年3月に神学専攻科卒業後は、2019年度半ばから所属教会である花小金井キリスト教会より「牧会スタッフ」として委託を受けました。

この働きは、信徒として牧師と共に、主日礼拝メッセージや病床訪問、その他礼拝委員会、教会学校の学びなど、教会全体の牧会的な役割を担っています。

私は、クリスチャンは誰もが学び続ける神学生・献身者であり、そして誰もが伝道者・牧会者であると思っています。

さらに私は、御言葉と福音を、より分かり易く日常的な言葉で伝え、またいつまでも共に分かち合いたいと思っています。